●わが市・町を紹介します

～ Introduction of Our Hometown ～

田主丸町

■人　口：21,532人（平成12年国勢調査）
■世帯数：5,732世帯（同）
■町　域：50.99平方キロ

■「楽しく生まる」が町名の由来

田主丸町は慶長19年（西暦1614年）、豪族菊池丹後入道の創建によるものといわれ、その地名の起こりは入道の往生観「楽しく生まる」から「たぬしまる」の名が生まれたと伝えられています。明治22年４月に市町村制の施行に伴う田主丸村と豊城村の合併により、田主丸町ができました。昭和29年12月には、町村合併促進法に基づき、田主丸町、船越村の一部、水分村、水縄村、筑陽村（川会村、柴刈村の合併）、竹野村が合併し現在に至っています。

田主丸町は、筑後平野の中心、北は筑後川の中流に位置し、南は東西に屏風状に連なる雄大な耳納連山（最高峰鷹取山標高802m）に接しています。東西に9.3km、南北に6.3km、総面積は50.99km^{2}です。

地勢は、耳納連山を頂点に山麓からなだらかに筑後川の河岸に続いており、その間には、豊穣な筑後平野が広がり、水田耕種農業、苗木、植木、園芸など町の基幹産業が展開されています。

■植木・苗木の生産は全国三大産地のひとつ

田主丸町は、植物の生育に恵まれた環境をいかした植木・苗木の生産が盛んです。その起源は約300年前の元禄年間に有馬藩が産業振興策としてハゼ、キリ、クワの苗栽培を奨励したことに始まります。植木苗木の生産では全国三大生産地として知られています。このほか、巨峰や柿などのフルーツの生産も盛んで、シーズンには観光農園での巨峰狩りや柿狩りなどで毎年多くの観光客が訪れています。

また、河童（かっぱ）伝説が多く残されており、河童の町としても知られています。

フルーツの生産も盛ん。毎年シーズンになると多くの観光客でにぎわう観光農園

久留米市

■人　口：236,543人（平成12年国勢調査）
■世帯数：88,777世帯（同）
■市　域：124.68平方キロ

■産業・文化が交流する　水と緑の人間都市

久留米市は、明治22年4月、全国30市と共に市制を施行しました。以来、ゴム産業を中心に発展し、ブリヂストンや月星化成、アサヒコーポレーションなど日本を代表する企業が生まれました。

現在は新分野の産業の育成にも力を入れ、地場産業と先端産業が調和した魅力ある都市づくりを進めています。

また、久留米市は、文化を育て、多くの逸材を輩出してきました。特に青木繁、坂本繁二郎、古賀春江らが現代日本美術史に残した足跡は大きく、その数多くの作品が石橋文化センター内の石橋美術館に展示されています。

石橋文化センターは、ブリヂストンの創業者・石橋正二郎氏が昭和31年に建設し、市に寄贈した総合文化施設。美術館のほか文化ホールや市民図書館、日本庭園などがあり、芸術文化の拠点となっています。

■世界各国からあつめた貴重なツツジを展示

市制100周年を記念して建設した「世界つつじセンター」では、世界各国から収集した貴重なツツジ類の保存育成、新品種の開発をしています。センター内には、約1,600品種21,000本のツツジが植えられ、春にはツツジ絵巻が繰り広げられます。

■コクが自慢の久留米ラーメン

久留米ラーメンは、豚骨を煮込んでつくった白濁したスープの、独特の風味とコクが自慢であり、特徴です。九州ラーメンの元祖とも言われています。久留米市内には約70軒のラーメン店があり、その味を競っています。

久留米が生んだ不世出の画家・青木繁の作品などを展示する石橋美術館